

## 5 大学間単位互換制度の今後の展望

早稲田大学 教務部長 小口 彦太

### 1. 単位互換制度の現状

早稲田大学が、国内の大学と本格的に単位互換制度を導入したのは、1996年の同志社大学との学生交流協定締結からでした。それまで、海外の大学とは200を超える協定を結び、単位の認定も盛んに行っていましたが、国内の大学とは、本学大学院文学研究科が慶応大学・学習院大学の3大学間で、同分野の研究科と単位互換制度を実施しているのみでした。

同志社大学との学生交流は、1年間相手大学で学ぶ「国内留学」形式で行うユニークな制度です。5年目を迎える現在、双方100名以上となり自発的な学生ネットワーク活動や共同ゼミの実施など、様々な面で確実に教育的効果が現れてきています。

2000年度からは、日本女子大学および学習院女子大学と、1対1の学生交流協定を締結し、近隣の大学との科目履修という形の単位互換制度を開始し、2001年度からは、前協定を発展的に解消して両校と立教大学、学習院大学と本学合わせて5大学間で単位互換

を開始する運びとなりました。

また、同時に2001年度から東京女子医科大学および武蔵野美術大学との単位互換制度も開始し、京都地域21大学・短期大学との交流も夏季集中科目および遠隔授業科目に限った形で開始しました。

2002年度からは、東京家政大学との交流を開始する予定ですが、児童学科、栄養学科、小学校課程の科目等が履修できるようになり、すぐには無理ですが、いずれ本学の学生が卒業と同時に小学校教諭に就職することも考えられます。

このように本学においては、様々な大学と単位互換が実現され、立教大学の学生が5大学間交流で本学の授業を履修すると、偶然10大学前後の学生が学んでいることもありえます。

### 2. 単位互換制度の主な目的

近年、国公私立を問わず、各大学で様々な形態の単位互換協定が結ばれるようになり、現在では珍しい試みではなくなってきました。他大学との単位互換協定を締結すると、「少子化に対

する生き残り対策か」とか「大学のアイデンティティが無くなるのではないか」との質問を多く受けます。当然、自大学生のニーズの多様化に応え、教育内容を充実させるという目的もあります。その一方で教育内容が外部の目にさらされることにより、比較の対象となる側面も生まれます。そういう意味では大学同志が共存の関係でありながら競争的な関係であるとも言えます。

しかし、本学は単位互換制度を導入した当初から、別の視点を持って他大学との交流を促進してきました。学生時代、特に多感な学部生の頃に、多様なバックグラウンドを持つ人々と相互に意見を交換したり友情を育む体験を持つことは、視野の拡大や人格の形成において大きな影響を及ぼします。また、大学の人材育成の視点からも、逞しい行動力と、多様な人々を尊重し共同して物事を進める協調性やリーダーシップ能力を身につける機会を提供することは極めて重要です。

### 3. これからの展開

学生の声を聞いてみると、「ゼミ論のテーマとぴったりなので、参考になると思い履修した（早大生）」「女子が多く一瞬気後れする部分もあるが、授業はあたたかくて包み込まれるような雰囲気がある（早大生）」「経済学を専攻しているが、自大学に計量経済学の授業がないためこの制度を利用した（他大生）」「中学から附属校だったの

で他の大学で勉強したかった（他大学生）」等、それぞれの動機の違いはありますが、概ね良好との回答です。

また、授業内容とは直接関係はありませんが、立教大学の4年生がいうには、「バンカラ番長が見たい」それが履修した理由だそうです。しかし、そのような学生とは出会えなかったようで、東南アジアや中国の学生と比較して日本の学生は「何か熱い」ものが欠けていると考えているらしく、バンカラ番長の早稲田に社会や自分たちに喝を入れて欲しいとのこと、とてもうれしいエールであります。

どこまで学生のニーズが多様化していくかは分かりませんが、今後、学生が大学をネームバリューで選択する意識が薄れ、「何をどれだけ学んだか」を評価する社会になれば、1つの大学に所属しながら、日本または海外も含めた各地の大学で、自分のキャリア設計に必要な科目を履修する学生が現れてくることでしょう。累積単位制度の改正やインターネットを活用した授業が増えてくれば、それほど不思議な話でもないと思われます。

この5大学間単位互換制度は、規模や内容からして、その1つのモデルケースになるのではないのでしょうか。今後は単なる単位互換だけではなく5大学間で共同でカリキュラムを開発することも考えられます。例えば、学際的な科目を5大学の先生が受け持ち、教室も月ごとに変えて5大学間を渡り歩くなどといった科目は、今までは想

像もできなかったことですが、今後は可能ではないでしょうか。

また、現在実験的に立教大学と本学の学生間でBBS（電子掲示板）を行っていますが、BBSを通じて、学生の生の声がタイムリーに入ってきます。先ほどの学際科目のカリキュラム開発も学生からの意見も聞き、よりニーズに合った科目設置が可能となります。

もちろん、5大学間で合意を得たわけではありませんが、今後はこのような今までは不可能であったことが、以外と簡単にできてしまうかもしれません。